

41市町村教委が苦言

府教育長。パワハラ「毅然と対応を」

大阪府の中原徹教育長が部下の府教委職員へのパワーハラスメント（パワハラ）を認定された問題で、大阪、堺両市を除く府内の41市町村の教育長が10日、「毅然とした対応」を求める要望書を府教委に提出する。いじめ問題などへの悪影響を懸念したという。通常は指導・助言を受ける側の市町村教委が、府教委に注文をつけるのは異例だ。【大久保昂】

府都市教育長協議会をあげていじめ問題にと府町村教育長会が提起し、リーダーたるべきか、リーダーたるべき

被害の教育委員 体調崩して退席

府議会常任委

9日の大阪府議会教育常任委員会で中原徹教育長のパワハラ問題を審議中、被害者の立川さおり教育委員が体調不良を訴えて退席した。府教委によると、立川委員は産業医の助言を受け、その後の審議を欠席した。

藤村昌隆府議（公明）がパワハラ被害者の救済を巡り、「一番心配されるのはPTSD（心的外傷後ストレス障害）」などと中原教育長らに質問した際、

立川委員は委員席に着いたまま目を何度もぬぐい、胸を押さえて体調不良を訴えた。審議は中断し、立川委員は周囲に支えられて退席した。

教育長が問題を起こしたことは遺憾。人権侵害もみられることから、現場に与える影響は大きい」と指摘している。府教委の毅然とした対応により、教育行政への信頼回復に努めることを求める。府内のある教育長は「府教委は『中原教育長の言動はいけなさとだ』と、明確に発信しなければならぬ」と話す。

一方、9日の府議会

教育常任委員会で陰山英男教育委員長は、「年度内に決着したい」と述べ、中原教育長の処分を月内にも決める方針を示した。

また要望書は、2016年春に公立高校入試の内申点が絶対評価に変わる際、大阪府教委が相対評価の要素を加えた独自の評価制度を導入しようとしていることも批判している。「府と市町村教委が行ってきた評価の妥当性を高める仕組みを全て否定する内容で、到底認められない」と府教委に対応を求め

中原教育長。パワハラ問題

野党攻勢、維新は擁護

府議会常任委

中原徹・府教育長(44)による府教委職員らへの発言が第三者委員会に「パワーハラスメント」と認定された問題めぐり、9日の府議会教育常任委員会で質問が相次いだ。攻勢を強める野党側に対して、維新側は中原氏を擁護した。

維新の永藤英機議員は、パワハラに対する府の処分規定を質問。府教委側の「府の条

例では戒告または減給で、教育現場での処分例はない」との答弁を受け、「(野党が共同提出した中原氏の) 辞職勧告決議案は行き過ぎで、教育長を辞めさせることが目的になっている」と述べた。

一方、公明の藤村昌隆議員は、府教委が直近3件で行ったセクハラ教職員の懲戒処分では停職としていることや、中原氏によるパワハラが複数あったことを踏まえ、「規定より重い処分ができる」条例の加重要項に当たるのでは」と指摘。処分時期についても尋ねると、陰山英男教育委員長が「年度内に決着したい」と答えた。

委員会の質疑の最中、中原氏からの高圧的発言が第三者委から「パワハラと認定されても不合理といえない」と言われた立川さおり教育委員(41)が突然泣き崩れ、退室する一幕もあった。府教委によると、医師から「過性ストレス」と診断され、委員会への出席を止められたという。